

## 谷中学校の活動の展開に関する研究 —まちづくり組織のあり方に関する基礎的考察—

正会員 ○池田 祥

まちづくり NPO 地域型

### はじめに

本研究はまちづくりグループ「谷中学校」の活動の展開過程について町との関係や内部の人間関係にまで踏み込んで明らかにし、その研究を通じて地域型まちづくり組織のあり方についての示唆を得ることを目的とする。

谷中学校は平成元年に大学院を卒業したばかりの若手専門家と地域住民の共同で設立されたまちづくりグループであり、台東区谷中界隈を活動の場とし、地域の生活文化を守り育てることを目的としている。

研究は1年半にわたる谷中学校の活動への参加を基礎とし、過去に書かれた文献資料と現在の主要メンバーへのアンケート、ヒアリング結果から考察を行った。

### 1 谷中のまちについて

谷中学校の活動の場である谷中の町の特徴として以下のようなことが挙げられる。

**寺町**—谷中は江戸時代より続く寺町であり、その門前町として発展をしてきた。

**自然環境**—寺の敷地や谷中霊園、斜面に多くの緑が残り、緑豊かな環境が形成されている。

**歴史的環境**—谷中地域は戦災・震災の被害を受けず、大規模が区画整理も行われなかったために、江戸・明治の道割りの上に数多くの歴史的建物が残っている。

**密集市街地**—戦災、震災の被害を受けなかったことは一方で、狭い道に建物が高密度で建ち並ぶ市街地を形成させることになった。谷中2,3,5丁目地区では幅が4m未満の道路が数多く、防災上の危険性も指摘されている。

**外来のまち**—江戸時代よりの名所地であり、また寺町であることから昔から外からの人を多く受け入れてきた。

**地域経済**—谷中には今も活気ある商店街が多く、地域のコミュニティの中心として大きな役割を果たしている。

**芸術文化・生活文化**—谷中は江戸時代より巧の技が根付く職人の町であり、芸術の町である。また、この地域には古くからのコミュニティが残り、生活に根ざした文化が残っている。

**コミュニティ基盤**—谷中地区は昔から町会組織がしっかりしており、まちづくりを支える地域の基盤として大きな役割を果たしてきた。また谷中コミュニティ委員会は町会を補完する形で横断的なテーマ型の活動を行ってきた。その他にも谷中地区には独自のテーマを持った団体が数多く、活発な活動を行っている。

### 2 活動の展開過程

谷中学校のこれまでの活動は大きく次の5つに区切ることができる。

- ・立ち上げ前期 1889年以前
- ・始動期 1989年～1993年
- ・展開期 1993年～1998年
- ・転換期 1998年～2001年
- ・新体制 2001年～現在

それぞれの段階ごとに「町の動き」「活動の展開」「内部の力学」の3つの観点から整理を行ったものが図1である。

### 3 谷中学校に関するまとめと考察

#### 3-1 展開過程のまとめ

谷中学校の活動はまちからの作用と自らの内的な変化の2つによって大きく展開してきた。立ち上げ・活動の転機をもたらしたものはまちの動きであり、活動の展開・新体制をもたらしたものは内部における活動の停滞や対立からの議論であった。

#### ○外部からの視点

谷中学校の活動を外部から見ると、「よそ者がまちの中で信頼を得ていく過程」、そして「専門家組織として活動を積み重ねていく過程」という2つの視点から捉えることができる。

**まちから信頼を得る過程**—まちから信頼を得ていく過程は出自、拠点の存在、芸工展と冊子づくり、調査・提案活動、ライオンズマンション見直し運動、日常のコミュニケーションの6つの要素にまとめられる。

**専門家として活動する過程**—専門家としての活動は地域への自主的提案と地域ニーズの拾い上げの2種類に分類できる。地域ニーズの拾い上げは住民意見の取りまとめと個人の思い・ニーズの拾い上げに分けられる。

#### ○内部からの視点

一方で谷中学校の内部に目を向けると、谷中学校の活動の過程が「2つの側面・立場を抱えて葛藤する過程」であり、その葛藤が活動を展開させてきたことが分かる。

それは「まちづくりの専門的活動の場」と「自主的活動の場」、あるいは「職能としてのあり方の実験場」と「ボランティアで町に関わる場」の2つの立場である。

その背景には「単なる専門家組織とは違うあり方を模索をしたい」というメンバーの思いがあったといえる。

### 3-2 谷中学校に関する考察

#### ○展開過程に関する考察

- ・谷中学校は常にまちと向き合う姿勢をとり、まちに配慮しながら活動をしてきた。
- ・谷中学校は内部からの圧力によって活動や体制を変化させてきた。それをもたらしたのは内部の人間の意識の多様さであり、それぞれが主体となる方向を目指してきたことによる。
- ・谷中学校の歩みは常に試行錯誤である実験的側面を強く持ち、若手専門家の成長に合わせて発展してきた。

#### ○谷中学校の抱える課題

谷中学校は現在大きく分けて、対外的な課題（目的や活動内容の認知不足）、体制的課題（組織力の欠如）、資金的課題（寄り合い処の維持資金）の3つの課題を抱える。

### 4 地域型まちづくり組織の考察

#### 4-1 谷中学校の位置づけ

一般に谷中学校は地域の中で活動する「専門家組織」という位置づけがなされる。

#### 4-2 地域型の専門家の可能性

地域の中で活動するまちづくりの専門家の役割は整理すると次のようになる。

**住民意見の取りまとめ**—「独自性・地域性の確保」「まちづくりへの方向付け」「協議型のまちづくりの可能性」

**ニーズの拾い上げ**—「地域の小さな需要を引き出す」

#### ○地域型専門家の経済的側面

地域の中で活動するまちづくりの専門家は、経済的に厳しい側面を持つ。その要因として以下のような事柄が挙げられる。

#### 一般的課題

仕事の量が少ない・社会的位置づけがない。

#### 谷中学校の抱えた課題

**外部的問題**—地域の中の営利活動への偏見、まちの中で信頼を得ていない段階での営利事業の難しさ、ボランティア活動から営利活動への転換の難しさ

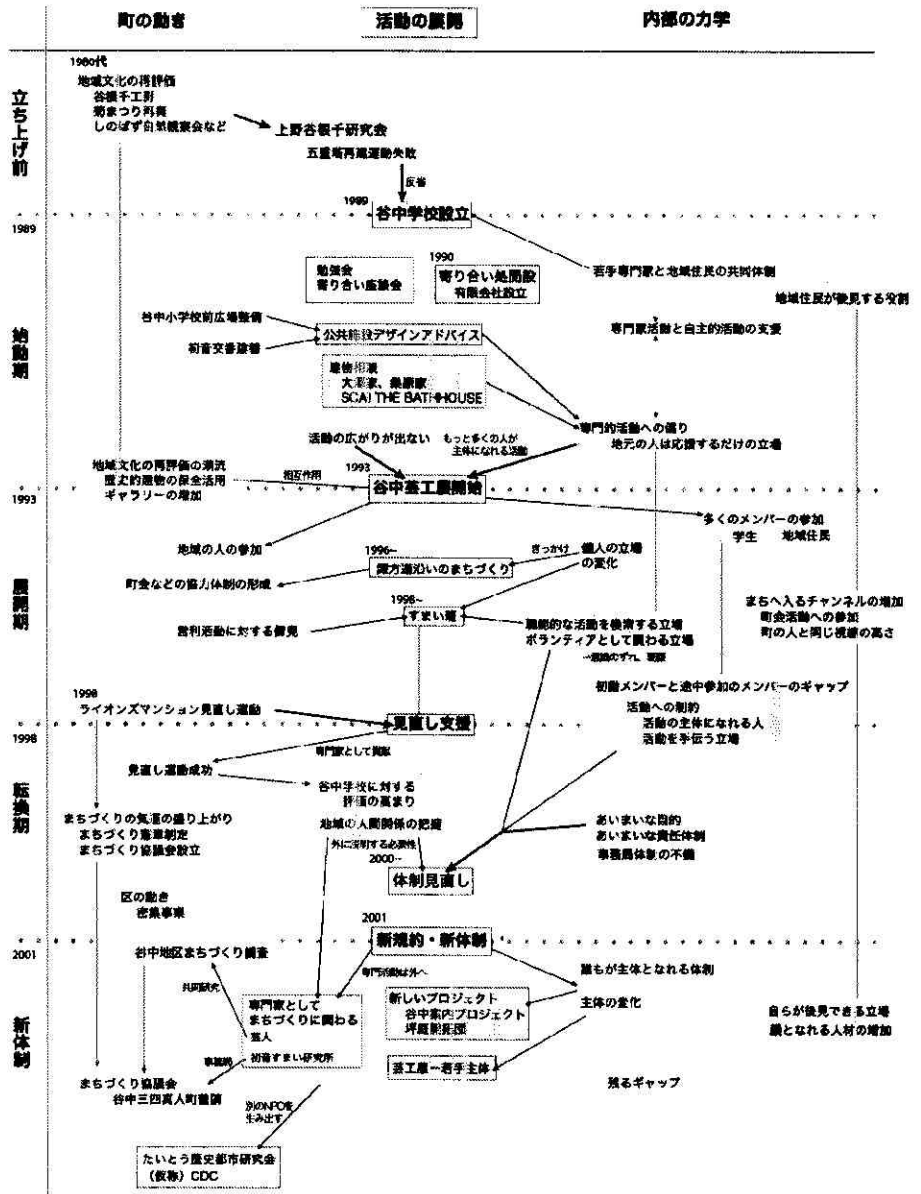


図1. 谷中学校の活動の展開課程

**内部的問題**—ボランティア活動と有償の活動の線引きの難しさ、組織としての責任体制の難しさ

#### 4-3 地域の中のネットワーク

谷中学校が地域の中で果たしている役割として地域の中のネットワークがあり、その役割には以下のようなものが挙げられる。

- ・団体同士のネットワーク
- ・テーマを持った活動や組織の創出
- ・地域活動の機会の提供

谷中学校メンバーを中心として、谷中学校とは別のNPOの設立も進められており、谷中学校を媒介とした形で新しい活動が生まれてきている。